

仮想空間に「チバニアン」

市原市 ガイドがレクチャー

産学官で構築

千葉県市原市は、77万4000〜12万9000年前の地質年代「チバニアン」（千葉時代）の由来となった市内の地磁気逆転地層をテーマとしたメタバース（仮想空間）を

構築した。地層が現存する田淵の崖を模した空間で利用者の分身となるア



市原市のチバニアンをテーマにしたメタバース空間はNTTコノキュー提供

バターを操作し、ガイドのレクチャーを受けながら理解を深められる。現地を訪れることが難しい人にも魅力を発信する。産学官連携で取り組み、NTTコノキュー（東京・千代田）が作成ツールを提供。千葉商科大学の

鎌田光宣教授と学生らがメタバースを構築した。メタバースの活用例を探る実証実験として位置づけ、住民の利用状況などを調査した上で、他の分野での導入も計画する。将来的には補助金申請などの窓口手続きを、メタバース上の電子市役所で行えるようにする構想もある。高齢者など移動が難しい人もサービスを不自由なく受けられる体制の整備を目指す。